

照の会 京都特別公演 ちかの会

協演・競演
競い合い

浦田保親

MOCHIZUKI

望月

狂言 口真似 茂山七五三

一人静

FUTARISHIZUKA

上田拓司

令和元年 9月15日 12:00開演 (11:20開場)

前売 ●指定席7,000円 ●自由席5,000円
●学生席2,500円
当日 ●6,000円(自由席のみ)

関西から



●主催：照の会・ちかの会 後援：京都府、公益財団法人京都市芸術文化協会、京都新聞

京都観世会館

京都観世会館

京都市左京区岡崎円勝寺町44
Tel. 075-771-6114



アクセス

- バスで・・・
- 各線京都駅から京都市バス5、100、京阪三条駅から京都市バス5で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
 - 阪急河原町駅から京都市バス 31、46、201、203、206で「東山仁王門」下車
- 電車で・・・
- 各線京都駅、京阪三条駅、阪急四條駅から京都市営地下鉄烏丸線乗車、「烏丸御池」にて東西線に乗り換え「東山」下車 徒歩約5分
 - JR山科駅、二条駅から京都市営地下鉄東西線乗車、「東山」下車 徒歩約5分

客席配置図

【料金】

- 前売 指定席 7,000円 自由席 5,000円 学生席 2,500円
- 当日 自由席のみ 6,000円

お問い合わせ・お申し込み

- ◆ 照の会(夙川能舞台瓦照苑) Tel. 0798-55-7362 / Fax. 0798-55-7363
E-mail. terasu@kanshou.com HP. http://www.kanshou.com
〒662-0063 西宮市相生町10-11
- ◆ ちかの会 Tel. / Fax. 075-723-7764
E-mail. info@urachika.com HP. http://www.urachika.com
〒603-8084 京都市北区上賀茂土門町30-3
- ◆ 京都観世会館 Tel. 075-771-6114 HP. http://www.kyoto-kanze.jp

出演者プロフィール

上田拓司 (うえたたくじ)

昭和34年 上田照也の次男として神戸に生まれる。父・照也及び大槻文蔵に師事。

昭和36年 仕舞「養老」にて初舞台。

平成7年 第1回「照の会」を開催。

平成11年 夙川能舞台「瓦照苑」設立。

平成18年 神戸ブルーメール賞を上田兄弟会にて受賞。

平成20年 文化庁芸術祭新人賞を受賞。

平成24年 文化庁芸術祭優秀賞を受賞。

令和元年 兵庫県功労者表彰。

- ・夙川能舞台瓦照苑 代表
- ・株式会社上田観正会能楽堂 取締役
- ・重要無形文化財総合指定保持者

浦田保親 (うらたやすちか)

昭和42年 浦田保利の次男として京都に生まれる。父・保利及び大槻文蔵に師事。

昭和45年 仕舞「春栄」にて初舞台

昭和52年 能「猩々」にて初シテ

平成4年 観世流準職分取得

平成7年 「道成寺」初演

平成7年 心味の会結成 20年まで活動

平成24年 第一回「ちかの会」を開催

平成30年 大阪文化祭奨励賞を受賞

- ・公益財団法人 京都観世会理事
- ・一般社団法人 京都能楽会理事
- ・重要無形文化財総合指定保持者

照の会 2019年度 会員募集

●会費 1,000円

●特典 ・瓦照苑主催の催しでの特別価格。

照の会 神戸・大阪公演／一般価格より1000円引き。
 <一般価格> 神戸公演／席指定無 6000円・席指定有 7000円
 大阪公演／S席7000円・A席6000円・B席5000円
 素謡会・舞囃子の会／500円引き <一般価格2000円>

・照の会 神戸・大阪公演入場券先行予約、その他催しのご案内。
 (一般の販売より先にご予約を承ります)

※会員は入会・更新日より一年間有効。
 照の会神戸・大阪公演のチケットも合わせてお申し込み頂けます。

「ゼロから始める大人の謡曲」入門教室 随時募集

●時間 各40分単位

●費用 3ヶ月 計6回分/6,480円

次年度 照の会 公演 令和2年

神戸公演 6月14日 能「頼政」上田拓司
能「船弁慶」上田顕崇 他 湊川神社神能殿

大阪公演 10月31日 能「蟬丸 替之型 琵琶之会釈」上田拓司・浦田保親
能「鞍馬天狗」上田宜照 他 大槻能楽堂
※大阪公演は「ちかの会」(主宰：浦田保親)との合同公演

令和元年 九月十五日（日）正午始

照の会 ちかの会 京都特別公演

於・京都観世会館

経正

舞囃子 浦田 親良
大鼓 谷口 正壽
小鼓 曾和 鼓堂
笛 杉 信太朗



京都府立大学教授 山崎 福之

菜摘女 上田 顕崇

二人静

勝手宮神主 福王茂十郎
静御前 上田 拓司
大鼓 谷口 正壽
小鼓 曾和 鼓堂
笛 杉 市和



実 上田 宜照
後見 上田 貴弘
上田 大介
地謡 笠田 祐樹
樹下 千慧
橋本 光史
武富 康之

口真似

太郎冠者 茂山七五三
主人 茂山 宗彦
客人 茂山 千三郎

後見 鈴木 実

休憩二十分

仕舞

雨月

大槻 文藏
片山九郎右衛門
地謡 浦田 親良
越賀 隆之
河村 和重
上田 大介

邯鄲

舞囃子 上田 宜照
大鼓 山本 哲也
小鼓 成田 達志
大鼓 前川 光長
笛 杉 市和



山崎 福之

花若 深野 和奏
安田友治ノ妻 深野 貴彦

望月

小沢刑部友房 浦田 保親
望月秋長 宝生 欣哉



地謡 上田 顕崇
片山 伸吾
浦田 保浩
橋本 光史

間 秋長ノ従者 茂山 逸平

大鼓 山本 哲也
小鼓 成田 達志
大鼓 前川 光長
笛 杉 信太朗

後見 赤松 禎友
大江 信行
武富 康之
地謡 浦田 親良
笠田 祐樹
樹下 千慧
上田 宜照

附祝言

終了予定 午後五時過ぎ

〈ご挨拶〉

新に令和の時代を迎え、同慶に存じます。平成年間「照の会」は平成七年より、「ちかの会」は平成二十四年より続けて参ることができました。これも、多くの方のご後援、お力添えの賜物と、感謝致しております。

さて此の度、初めて合同で「照の会 ちかの会 京都特別公演」を催させて頂きます。変らぬご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

上田 拓司
浦田 保親

〈あらすじ〉

能「二人静」

吉野の勝手明神の正月七日の神事のために、神職（ワキ）から命を受け若菜摘みに出た女（ツレ）。菜摘川に着くと、どこからか女の霊（前シテ）が現れ、自分の回向を神職にお願いしてくれるよう頼みます。女が驚き名を尋ねると、それには答えず、この願いに疑いを持つ者が現れたら、その時は憑依して名を名乗ろうと告げ、姿を消してしまいました。

女が今日の出来事を神職に報告していると、突然声色が変わります。女は自ら疑いの言葉を発し、憑依されたのです。神職が憑依した霊に名を尋ねると「判官殿に仕えたもの」と、静御前であることを匂わせました。静御前なら舞の名手であるはずと問うと、神社に伝わる静の舞装束を持ってこさせ、それを身に付け舞い始めます。するとその背後に、静御前の姿（後シテ）が現れ、在りし日を思い共に舞います。そして後の回向を頼んで、静かに消えていきました。

能「望月」

信濃国・安田庄司友治は、同国の住人、望月秋長と口論の末、討たれてしまいます。友治に仕える小沢刑部友房（シテ）は、都にいる時にそれを知らされ、さらに望月の手の者に命を狙われていると聞いて、宿場町・守山に入り込み、甲屋という宿の主人となり、日々を送っていました。

一方で、国を追われ放浪の身となっていた友治の妻（ツレ）と子の花若（子方）は、ある日、守山の宿にたどり着き、甲屋に泊まります。友房は、二人が友治の妻子であると気づき、名乗って再会を喜び合います。するとそこへ偶然、望月秋長の一行が宿を求めてやってきます。友房は天の与えた機会と思い、友治妻子と仇討ちの計画を立てます。そして妻子を盲目の女芸人一行に仕立てて座敷に上げ、芸を尽し酒を飲ませて油断を誘います。やがて眠気がさした望月を襲い、花若とともに斬り伏せ、仇討ちを遂げます。

狂言「口真似」

酒の相手を探してこいと命じられた太郎冠者は、渋る顔見知りの人を無理やり連れてきました。しかしその客人は有名な酒乱だったのです。無理に連れてきた手前、主人は冠者に自分のいうとおりに行動するよう命じ、穏やかに帰そうと考えますが……。